

第1回
8/29
(木)

R6
「ひめじョリーダー塾」
「女性部下を育てるための
マネジメントセミナー」
共通

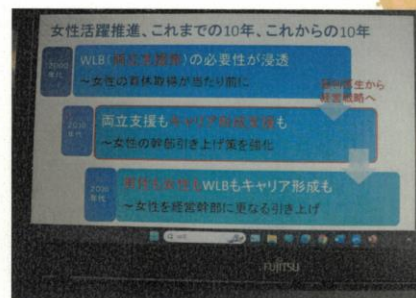
公開セミナー（台風のため完全オンライン開催）

女性活躍が成長のカギ

～人も組織も愛媛も強くなるために～

ジャーナリスト・日経WOMAN元編集長

（公財）日本女性学習財団 理事長 野村 浩子さん



来館・オンラインのハイブリッド開催予定が、台風の影響で完全オンラインでのセミナーとなりました。個人のみならず企業の講習会としても多くの方々にご視聴いただきました。

豊富な取材経験をお持ちの講師が様々なデータや事業戦略成功実例を上げながら、女性活躍で会社や地域を強くする成長のポイントを上げていただきました。

コンフォートゾーン（居心地の良い仕事ができる領域）から出て一皮むけた経験をすることが大事、そのためには組織としてどうやって女性活躍に取り組むか（HOW）よりも、なぜ女性活躍が必要なのか（WHY）の意義づけをすることが必要だとお話いただきました。

見えない壁となるジェンダーバイアスの問題解決に向け、垣根を超えて連携する必要性についてもお伝えいただきました。

受講生の感想

- 野村さんの講義では、日頃モヤモヤ感じていることをズバッと切り込んで下さり、心が軽くなったと同時に自分が感じていたことは間違いではなかったのだなと感じました。
- 当事者ながら「女性活躍」という言葉には少し抵抗があるのですが、感情論ではなく様々な事例やデータの裏付けのもとでのお話で、とても勉強になりました。会社として様々な制度は用意されていても、実際に活用するところまでできていないため、率先して活躍して更なる課題を見つけて改善し、後輩たちのモデルになっていきたいと感じました。
- 課題の中に挙げられた「経営戦略の中で、十分に意義付けされていない」というところが、まさに当社の課題でした。ずっとHOWの部分を考えていましたが、答えは全く出なかったのが本日のお話を聞いて腹落ちしました。今後は経営層も巻き込んで推進をしていかなければならないと感じました。

第2回

9/19

(木)

R6
ひめじょリーダー塾

リーダーを目指す女性のための キャリアデザイン

一般社団法人スキルドエヒメ 代表理事 天野 淑子さん
理事 亀岡 さちこさん



講師のお二人から次のアドバイスを頂きました。

- ・女性が、仕事やライフスタイルも含め実現したい目標を主体的にデザインするために、過去を振り返り現在の自分を見つめ、自分の強みや弱み・価値観などの気づきを得ることが必要。
- ・市場価値としての自分を客観的に捉え、目標を叶えるために取り組むべき自己理解・前向きなキャリア意識・キャリア目標・自己啓発行動・ネットワーク作りなど、自分を絶えず磨きスモールステップで行動を変えることが必要。
- ・マインドセットを自己変革するためには、メンタルブロックの解除や自分のOSを常にアップデートし、行き詰った時の「ネガティブケイパビリティ」（どうにも答えの出ない対処しようのない事態に耐える力）を持つことも大事。

またライフラインチャートシートなどを用いて、参加者それぞれが自分のライフデザインや長所などを見つめ直し、意見交換も行いました。

受講生の感想

- ・ 今回の講義を受けて、日々の業務に追われ気味で自分のキャリアプランについて明確な目標を立てられていないなと感じたので、今回を機会にキャリアデザインシートを完成させてみようと思いました。目標を立ててスモールステップで自分らしくキャリア形成していきたいです。
- ・ 内容が正に今、自分が悩んでいることだったので興味深く聞き入りました。講師の方の意識レベルの高さに惚れ惚れしました。自分なりの道を考えてみようと思います。
- ・ 人生100年時代、もう40だから、50だからと諦めず、常に自分のOSを更新していくことが大切であると改めて考えさせられました。自分の限界を決めず、これからも新たなチャレンジに取り組んでいきたいです。とても聞きやすい講義でした。

第3回

10/18

(金)

R6
ひめじょリーダー塾

アンコンシャスバイアス (無意識の思い込み)を知り、自分らしく輝く

「まなのき」代表

(一社) アンコンシャスバイアス研究所

認定トレーナー

石井 真奈さん



同日午前にはオンラインで開催された「部下を育てるためのマネジメントセミナー」に引き続き、女性リーダー育成塾として初めてリーダーとなる方、リーダーとして自信を持とうとされている方を対象に、アンコンシャスバイアスとはどんなものがあるのかを学びました。来館された方はグループワーク、オンライン受講の方はブレイクアウトルームでのセッションを行い、自分自身のアンコンシャスバイアスの気づきを共有しました。アンコンシャスバイアスに気づく事で物の見方が変わります。女性リーダーを目指す皆さんは、自分で自分の可能性を狭めてしまう事のないようアンコンシャスバイアスの上書きを行い、アンコンシャスバイアスに向き合い続ける重要性を認識したセミナーとなりました。

受講生の感想

- ・ 無意識の認知について、生活のいろんな場面でアンコンの影響があると感じました。自分の可能性に制限をかけることは極力避けたいと思います。
- ・ アンコンシャスバイアスについての理解が深まりました。ワークが多めで楽しく学ぶことが出来ました。
- ・ 宣言!!「相手と話をすることを大事にします。勝手に決めつけない。」「立場(先輩、後輩、母親・・・)ではなく自分がどうかで考えてみる。」立場ごとのふるまいも大事なので難しいですが・・・!!
- ・ 本日の講義でアンコンシャスバイアスという言葉を知りました。そして思い返してみると日々アンコンに溢れているなど実感しました。その中でもネガティブなことや否定的なことが多いように思います。少し意識を変え、これを機に前向きに向き合っていきたいと思います。また色々な方の意見が聞けて非常に勉強になりました。

第4回

11/14

(木)

R6エンパワーメントカレッジ
ひめじょリーダー塾

自分の強みを活かしたリーダーシップを 発揮しよう

愛媛大学教育・学生支援機構 講師

村田 晋也さん



4日目となった今回は、リーダーシップは状況によって誰でも発揮していて、日常に当たり前にあることを再認識した上で、リーダーシップ研究の歴史的変遷の中から、今でも通用する行動論を代表するリーダーシップのPM理論を学びました。グループワークでリーダーシップの言語化にトライし、P行動（目標達成行動）M行動（組織体維持行動）のPM類型に沿ってそれぞれ誰を思い浮かべたか、自分はどのタイプかなどを皆で共有・発表しました。

SL理論では、構成するメンバーの成熟度の違いによって有効なリーダーシップのスタイルは異なることを、分かりやすい例と共にご説明いただきました。理論を通して自分らしいリーダーシップのスタイルを再認することが出来ました。

受講生の感想

- 相手の円熟度によって対応を変える、リーダーになるべきは相手をよく観察すること、理解することがとても大事なんだと考えさせられました。例えを交えての講義がとても分かりやすかったです。
- リーダーというと構えてしまうところがあったが、家族でも友人間でもリーダーシップが存在しているんだと知り、身近に捉えることが出来た。上司・部下間だけでなく、同僚と仕事する上でも意識すると良さそうと思った。
- SL理論を聞いて、今まで自分が部下の立場で感じてきたなんとも言えない違和感を言語化していただけたような気がします。特に「なんでこんな分かっていることをわざわざ言うのだろう」ということが多く、いつもモヤモヤしていました。自分がチームを作っていく時は相手の円熟度を見極めて対応していきたいと思います。

第5回

12/20

(金)

R6エンパワーメントカレッジ
ひめじょリーダー塾

リーダーのためのチームビルディング

岡山理科大学 学長補佐・教授

秦 敬治さん



えひめ女性リーダー育成塾の最終日となった第5回は、4回の講義を経た上で、これからのチームビルディングにおいての重要なヒントを沢山いただきました。講師の秦さんは、チームで理念・ビジョンを最初に共有することが大事であるとして、目標を明確化し信頼関係の構築と一体感を作り出す必要性を述べられました。さらにメンバーの個性やスキルと言った強みを活かした人材マネジメントでは、メンバーが育ちにくい過干渉や放任は避けながら一人ひとりの可能性や潜在能力を活かすことが必要、時には自分の弱さもさらけ出し補い合うことが、同じ夢に向かってバランスのいい仲間関係を作るコツだと実体験やアニメ「ワンピース」のルフィのリーダー力を例にあげながら分かりやすくご説明いただきました。

受講生の感想

- どのような人が組織を良くしていくのか、自分がどんな人材を目指したいのか明確になった。
- 実用的というか例を交えながら話して頂いたのでスッと落ちてきました。そして実践のイメージもつきやすかったです。
- 学びが多かったです。ゆっくり資料を見直します。忘れたくない言葉もたくさんあり、見えるところに書いて置いておきます。
- 秦先生のお話はご自身のお話なども交えて講義していただき、勉強不足の自分にも分かりやすく受講できました。
- 自分を信じる、真摯であることを学び、働き方改革・コンプライアンス・ハラスメントなど、揺らいでいたことがあったが、やってきたことをもう一度信じようと思いました。
- 具体的ですぐに生かせる内容が沢山あった。最も満足度が高い講義だった。